

令和4年度 事業報告

1 事業の概要

令和5年3月内閣府発表の月例経済報告による北海道の景気は、「持ち直しの動きに足踏みがみられる。」状況となっており、観光や個人消費については、「緩やかに持ち直している」という景気動向であります。令和2年からの新型コロナウイルス感染症の影響や昨年から続くロシアによるウクライナ侵攻によるエネルギー関連価格の上昇及び円安による輸入品価格の上昇など先行きには不透明感があり、江別市シルバー人材センターを取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況が続いています。

雇用情勢については、求人が上昇しており、有効求人倍率は、1.11倍と前年を0.11ポイント上回り、完全失業率も、2.7%と前年より0.3%減少し、業種によっては人手不足感も出てきておりますが、そのような状況の中で、当センターの派遣事業の契約額は、前年度の「6,295万円」を「1,009万円」上回る「7,304万円」となりました。

一方、請負就業契約額は、江別市の公園管理業務がなくなったことなどもあり、前年度の「2億2,496万円」を「1,480万円」下回る「2億1,016万円」となりました。請負と派遣を合わせた総契約額では、前年度の「2億8,792万円」を1.64%下回り「2億8,320万円」となりました。

事業目標の達成状況については、会員数では前年度の「890人」から「950人」と「60人」の増加となり、目標値である「904人」を上回りました。しかしながら、請負契約金額は、目標値「2億5,000万円」を「3,984万円」下回る「2億1,016万円」となり、派遣契約金額は、目標値「6,387万円」を「917万円」上回る「7,304万円」となりましたが、請負と派遣を合わせた金額は、目標値「3億1,387万円」を「3,067万円」下回る「2億8,320万円」となりました。また、派遣就業延人日については、新型コロナウイルス感染症の影響等もありましたが、目標値の「10,474人日」を「893人日」上回る「11,367人日」となりました。

以下、令和4年度の事業実施状況の詳細について、報告します。

2 事業実施状況

(1) 会員数の増強

ア 会員の拡大

全国シルバー人材センター事業協会が示した会員100万人達成計画に基づく北海道シルバー人材センター連合会の江別市会員目標904人を上回る950人を達成しました。

年 度	目標数	会 員 数
平成29年度	850人	722人
平成30年度	760人	697人
令和元年度	779人	803人
令和2年度	809人	860人
令和3年度	855人	890人
令和4年度	904人	950人

- ① 全戸チラシ配布を行い、センター事業の普及啓発と新入会員の入会促進に努めました。
- ② 北海道シルバー人材センター連合会と連携した就業体験入会説明会及び就業体験を実施し、5人の新規会員が入会しました。
- ③ 隣接の新篠津村との連携により会員増に努めました。
- ④ 社会奉仕会員制度により会員の退会抑制を図りましたが、退会会員は45人になりました。

イ 社会奉仕活動の充実

- ① JR駅周辺の環境美化やスポーツイベントの支援をする計画でしたが、新型コロナウイルス感染症により多くが中止となりました。
- ② 超高齢化社会に向けて地域の高齢者を支援するゴミ出しをワンコインでの有償ボランティアとして継続しました。

事業名	開催日	場 所	参加人数
マラソン大会ボランティア	5月	野幌運動公園	中止
草取りボランティア	6月	野幌駅周辺	中止
草取りボランティア	9月	野幌駅周辺	中止
市民刃物研ぎ講習会	3月23日	緑町老人憩の家	6人
市民刃物研ぎ講習会	3月28日	大麻老人憩の家	3人

(2) 就業機会の拡大

ア 請負事業の確保

(受託事業)

令和5年3月末現在

年 度	受注件数	請負延人数	契約額
平成29年度	6,498件	47,243人日	22,148万円
平成30年度	6,315件	46,271人日	22,059万円
令和元年度	5,471件	43,308人日	20,701万円
令和2年度	5,260件	50,975人日	23,827万円
令和3年度	5,165件	48,661人日	22,497万円
令和4年度	4,698件	46,406人日	21,016万円

- ① 市内企業や公共団体を訪問して就業先の掘り起こしに努めました。
- ② 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。
- ③ センター内の就業情報板の活用のほか、全会員への郵送等により迅速な情報提供に努め、新たな就業先を紹介しました。
- ④ シルバー通信の充実を図り、様々な情報を提供しました。

イ 派遣事業の拡大

企業の人手不足が拡大するなか適正就業を推進することにより、新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが派遣事業実績は増加し、延就業人数が目標値の10,474人日を893人日上回り、契約金額も前年度の6,295万円より1,009万円増加の7,304万円となりました。

(派遣事業実績)

令和5年3月末現在

年 度	受注件数	派遣延人数	契約額
平成29年度	51件	12,080人日	6,221万円
平成30年度	50件	12,116人日	6,474万円
令和元年度	71件	12,844人日	7,186万円
令和2年度	43件	10,446人日	6,213万円
令和3年度	56件	10,371人日	6,295万円
令和4年度	101件	11,367人日	7,304万円

- ① 市内民間企業や行政等への訪問によって、就業先の確保に努めました。
- ② 全国シルバー人材センター事業協会及び北海道シルバー人材センター連合会と

連携し、企業への派遣事業を進めました。

- ③ 地域の労働力不足を補うために、シルバー派遣事業をより一層拡大し、多様な就業機会確保に努めました。
- ④ 同一労働同一賃金制度への対応をしました。

(事業契約実績)

令和5年3月末現在

年度別	4年度	3年度	2年度	元年度	30年度
受託事業	21,016万円	22,497万円	23,827万円	20,701万円	22,060万円
派遣事業	7,304万円	6,295万円	6,213万円	7,186万円	6,474万円
合計	28,321万円	28,792万円	30,040万円	27,887万円	28,534万円

ウ 技術・接遇等の向上

新型コロナウイルス感染症対策のため視察研修会をはじめ、各種研修会等の開催は、公共施設管理接遇研修を除き中止となりました。

講習会名	開催日	会場	参加人数
初心者剪定講習会	6月	未定	中止
初心者冬囲い講習会	11月5日	見晴台公園	4人
S C 視察宿泊研修会	11月	小樽市 S C	中止
初心者刃物研ぎ講習会	11月	センター研修室	中止
福祉家事援助清掃講習会	1月	センター研修室	中止
安全衛生研修会	1月	はやし	中止
公共施設等就業者研修会	3月2日	センター研修室	19人

(3) 安全就業及び適正就業の推進

ア 安全就業の徹底

傷害事故6件、労災事故2件と損害賠償事故1件が発生しましたが、重篤事故は発生しませんでした。安全衛生委員会では、安全就業の徹底に向け、以下の5項目の対策を行いました。

- ① 安全パトロールを行い、安全意識の啓蒙と事故防止に努めました。
- ② 安全標語の募集など、安全と事故防止のための啓発に努めました。

令和4年度安全標語最優秀賞 「危険の芽 絶えず変化し 忍び寄る」

- ③ 安全保護具の着用と機械器具の点検整備を強化し、事故防止に努めました。

- ④ 請負会員には健康診断の受診を奨励し、派遣会員には健康診断を実施しました。
- ⑤ 「団体傷害保険・総合賠償責任保険」に継続加入しました。

令和4年度事故概況

(傷害事故 6件)

(前年度 1件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
女	61	草取り作業	作業中、毛虫の毛が刺さり手や腹部に発疹
男	69	剪定作業	片手用の剪定ばさみで細い枝を切っていた際に左手中指を切る
男	67	草取り作業	作業中、エアコンの室外機に頭頂部左側をぶつけ頭皮を挫創
男	83	墓地の草刈作業	作業中、スズメバチに後頭部2か所を刺される
男	70	草取り作業	作業中、太めの草を切断しようとした際、誤ってノコギリで左手人差し指を切る
女	71	清掃業務	就業場所からの帰宅時に雪道で転倒し右肩を骨折。

(労災事故 2件)

(前年度 2件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
女	66	清掃作業	工場構内入口で躓いて転倒、右肘の骨折
男	71	除雪機械の補修点検	機械のキャップを外そうとした際に、右手親指の腱を断裂

(賠償事故 1件)

(前年度 3件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	67	文書集配業務	業務中、車で右折時に左側から来た走行車両と接触

イ 適正就業の推進

- ① 法令を遵守し、高齢者に適した臨時的、短期的または軽易な就業を行うことはシルバー人材センターの基本姿勢であり、社会的な責任をもってその役割を果たしました。
- ② 企業等の発注者や会員に「適正就業ガイドライン」を活用してセンターの就業形態について周知し、理解を求めました。
- ③ 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機

会の確保に努めました。

(4) 運営基盤の強化

ア 組織体制の強化

派遣事業の拡大に伴う業務量増に対応するため臨時職員の雇用を継続するほか、会員による事務補助員も確保し、組織体制の維持に努めました。

年度別	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
正職員数	6人	6人	6人	5人	4人
臨時職員数	1人	1人	2人	9人	5人
業務補助員数	1人	1人	1人	1人	1人

- ① 公益社団法人として、健全な運営や透明性の確保、地域社会への貢献、法令順守など認定法に基づく事業運営を行いました。
- ② 理事会の活性化を図るため北海道シルバー人材センター連合会の役員研修会に4人が出席しました。
- ③ 江別、野幌、大麻の3地区で地区懇談会を開催しました。
- ④ パソコン等情報機器の整備により効率化に努めました。

イ 財政の健全化

国の補助金の削減により厳しい財政運営を続けてきましたが、平成27年度から始まった高齢者サポート事業補助金により安定的な運営資金が確保されました。

(補助金実績)

年度別	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
連合交付金	23,339千円	23,339千円	23,339千円	23,339千円	23,739千円
市補助金	23,339千円	23,339千円	23,339千円	23,339千円	23,739千円
村補助金	500千円	500千円	500千円	—千円	—千円
合計	47,178千円	47,178千円	47,178千円	46,678千円	47,478千円

- ① 就業の拡大により事務費を確保しました。
- ② 派遣事業の拡大により手数料を確保しました。
- ③ センター事業の趣旨に賛同する賛助会員の確保に努めました。
- ④ 最低賃金の改正に伴い配分金の改正を行い、令和5年4月から施行します。
- ⑤ 独自事業の「堆肥・腐葉土」作りは、採算性等を考慮し終了しました。

ウ 広報活動の強化

- ① 会員の増強や受注の拡大のために、新聞広告やチラシ配布等を継続するほか、センターホームページの充実を図りました。
- ② 会員一人ひとりが会員増強と事業拡大のために、口コミによる広報活動への取り組みを進めました。

(5) 関係機関団体等との協力連携

江別市、厚生労働省、北海道労働局、北海道、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会、道内外のシルバー人材センターと連携し、事業の円滑な運営に努めた外、隣接自治体である新篠津村と連携し、事業を進めました。